地域リハビリテーション支援センターだより
（神奈川県リハビリテーション支援センター）
100号
2024,
2月

支援センターだよりの歩みと共に…

今年は、元旦から能登半島地震や羽田空港の航空機衝突など、世間に衝撃を与える出来事が続きました。地震に関しては、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震など、大規模な災害の記憶が薄れることなく、新たなものとして我々に迫りました。羽田空港の事故は大惨事一歩手前で回避されましたが、実際には世界中で非常に危険をはらんだ事故が続いていることを痛感しました。

当支援センターは2002年の発足当初より神奈川県リハビリテーション協議会（現在は神奈川県在宅医療推進協議会部会）と連携し地域リハビリテーション推進事業と高次脳機能障害地域支援推進事業を中心に活動をしてまいりました。2009年より地域支援センターだよりを創刊し、当号でちょうど100号となりました。活動当初は地域リハビリテーションの活動内容が理解しづらく、2000年に介護保険が導入され、2006年には自立支援法が施行され、高齢者や障害を持つ方々が地域社会の中で生き生きと生活できるような社会を目指すことが示されました。

支援センターだより創刊号において、初代所長の大橋正洋先生は、『障害を持つ人々の「生活の質」の向上にリハビリテーションが寄与するべく、当リハビリテーションセンターが持つ技術を広く県内で役立てていただきたい』との思いを述べられました。この志に基づき、多職種連携によるチームアプローチを県内の市町村で構築し、地域の当事者と支援者の皆さんが既成の介護メニューからチョイスするだけの支援ではなく、リハビリテーションの理念に基づいて個々のニーズを解決して行くことへ繋げていくことが大切です。

もともとリハビリテーション（rehabilitation）は訓練と誤解されがちですが、ラテン語の「ハビリス（habilis）」から派生し、「（人間に）ふさわしい」という形容詞に由来しています。これは、人が何らかの原因で望ましくない状態に陥った時に、再び人としてふさわしい状態に復帰すると言う意味が込められており、近代では「権利の回復（復権）」として幅広く使われるようになりました(Re-habilis ・ rehabilitation)。地域リハビリテーションや地域包括ケアシステムも同じ意味で、障害や心身の衰えにより日常生活に支障を生じている方々が、地域社会のなかで支援する人やそれを見守る人々と共に生きていくシステムを構築することを主眼にしています。

包括ケアシステムが浸透するに従い、地震や災害、そして大事故に遭遇した際に、その状況に思いを巡らし、他人事でなく何かできることを考えることができるようになったのは、真の意味でのリハビリテーションが社会に浸透し始めた証だと思います。

『支援センターだより』の100号を通して、
その歩みを実感し、気持ちを新たにいたしました。

神奈川県リハビリテーション支援センター　村井 政夫

リハビリテーション専門研修 報告

12.9（土） 高次脳機能障がいセミナー 実務編

高次脳機能障がいの方は、脳損傷後に注意障がい・記憶障がい・遂行機能障がい・社会的行動障がい等により、生活のしづらさが生じます。社会参加に向けて、本人の状態や生活状況に応じた支援・対応が必要であり、医療的・社会的・職業的リハビリテーションの視点が重要となります。今回のセミナーでは「ケースから学ぶ ～入院から社会参加まで～」をテーマに、ある事例を通じて段階に応じたアプローチのヒントを、各専門職からの講義を通して学びました。

受講生の声

多職種連携によるアプローチについて知ることができ、支援についての視野が広くなれたように感じます。地域での生活リハビリ機関との連携も、もっと積極的に働きかけていきたいと思いました。

神奈川リハビリテーション病院　医師 青木 重陽 、公認心理師 永山 千恵子 、理学療法士 岡部 みなみ
作業療法士 對間 泰雄 、職業指導員 進藤 育美 、ソーシャルワーカー 佐藤 健太

1.20（土） 高次脳機能障がいセミナー 就労支援編

高次脳機能障害がいのある方の就労支援に関するプロセスや取り組み、特に支援に必要なアセスメントや就労支援機関との連携、情報共有などのポイントについて、講義と事例検討会を通じて学びました。

受講生の声

他職種の方と事例検討できたことで、幅広い視点を知ることができました。

具体的な症例をあげながらの説明がわかりやすかったです。

湘南地域就労援助センター　湘南障害者就業・生活支援センター　センター長　小川 菜江子 氏
藤沢市高次脳機能障がい者相談支援事業者　チャレンジⅡ　平野 美夏子 氏
神奈川リハビリテーション病院　職能科　露木 拓将 、小林 國明 、増子 寿和
総合相談室　佐藤 健太

1.27（土） 地域生活を支える支援とは ～上肢装具・下肢装具の導入に向けて～

事例をもとにした講義や装具体験・グループワークを通じて、地域生活において適切な装具を提供するために必要なスキルを学びました。

受講生の声

PSB使用でADLの幅が広がることは体験を通して実感できました。

事例を用いた説明で、評価や他職種への伝え方の大切さや、装具をつくる際の流れを理解できました。

株式会社Re ambitious 訪問R-station 理学療法士 田代 宙 氏 、地域リハ支援センター 清水 里美

2.3（土）　車いすシーティング

車いすと利用者との適合を評価するために、座位姿勢の確認・車いすと身体の適合に必要な基礎知識、クッションの調整など、講義と体験を交えて学びました。

受講生の声

安定した座位の姿勢・座位の要素を知る事で評価の視点・調整する視点を色々学べました。

車いすを選択する視点を確認することができました。介護の視点での気をつけるポイントを学べました。

神奈川リハビリテーション病院　　理学療法士 小泉 千秋 、森田 智之 、リハエンジニア 松田 健太

2月 の研修会予定

地域連携構築推進事業 『生活を続けるための視点と提案』 第2部	2024年2月22日（木） 18：00～19：45	逗子市役所 5階会議室

2023年度 保健福祉事務所 への 難病支援 について

新型コロナウイルス感染症の影響で、保健福祉事務所からの難病リハビリ教室や個別相談が途切れていましたが、2023年度は5か所の保健福祉事務所より合計9回の協力依頼がありました。

◎ **厚木保健福祉事務所大和センター**
：難病個別訪問相談4回（6月21日、10月4日、12月20日、2024年2月7日）

◎ **小田原保健福祉事務所**
：難病リハビリ教室「座って行う運動」（9月29日）
難病リハビリ教室「自宅でできるリハビリ ～運動&個別相談会～」（2024年3月8日）

◎ **平塚保健福祉事務所秦野センター**
：難病リハビリ教室「体を動かしましょう」（12月22日）

◎ **小田原保健福祉事務所足柄上センター**
：神経難病講演会「摂食嚥下に効果のある運動」（2024年1月25日）

◎ **藤沢市保健福祉事務所**
：リハ講座「難病患者へのコミュニケーション支援」（2024年2月21日）

早期からのリハビリが機能維持に重要であるにもかかわらず、介護保険で要支援や非該当の方は、『リハビリはしたいが、リハ専門職から指導を受ける機会が少ない』という声を聞きます。

このような課題への対応の一つとして、保健福祉事務所への難病支援を行っています。

今年度参加された方の中には、コロナ禍前に参加していただいた方も数名いらっしゃり、『以前教えてもらった運動をコロナの間もやっていました』という言葉を頂き、とてもうれしく思いました。

自立支援や重度化予防のためには、リハビリテーションの視点も大切です。難病に関わる支援者からのご相談をお持ちしています。

鎌倉での家族会（意見交換会）について

私たち相談支援コーディネーターは、小田原、相模原、藤沢、大和の当事者・家族会に定期的に参加しています。昨年度、今年度と平塚でも相談会を開催しましたが、この度、鎌倉で家族会（意見交換会）を開催しましたので ご報告いたします。

当日は、神奈川脳外傷リハビリテーション講習会in鎌倉（一般社団法人日本損害保険協会助成事業）の講習会があり、終了後に、鎌倉地域の当事者・ご家族・支援者の方にご参加いただき開催となりました。

参加者は、当事者・家族15名、支援者9名の24名となりました。受傷・発症後間もない方、ある程度時間が経過している方、当事者・ご家族それぞれの立場からお話をいただきました。支援者が話をするだけではなく、当事者・ご家族同士で話をされる場面が見られ、ピアサポートの場になっているように感じました。最後には、継続的に開催したいという声があがり、定期的な開催を検討していくこととなりました。

今回は鎌倉での開催でしたが、拠点機関だけでなく、地域の支援者の方々と協力して継続的に開催していく方法を模索していくことが大切だと考えています。今後も、参加できるような場が広がっていくように考えていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

（佐藤）

令和5年4月～
令和6年1月までの
専門相談実績

	神経・筋疾患	脊髄障害	脳血管障害	骨関節疾患	後天性脳損傷（除くCVA）	脳性麻痺	知的障害	視覚障害	その他（切断・加齢等）	不明	合計
県央	11(1)	1	5		1	3(1)	32(13)	7	2		62(15)
湘南東部							1	5	1		7
湘南西部	6	1	2			1		5	1		16
県西	2	1	3		1		5	1			13
横須賀・三浦	1		2				5(3)	7	2	2	19(3)
横浜市	2		2	1			3	13			21
川崎市								3			3
相模原市			1				2	4	1		8
県外				2					1		3
合計	22(1)	3	15	3	2	4(1)	48(16)	45	8	2	152(18)

	障害者更生相談所	居宅介護支援事業所	市町村	地域包括支援事業所	本人・家族	障害者相談支援事業所	障害者施設	医療機関	訪問看護事業所	保健福祉事務所	高齢者施設	訪問介護事業所	教育機関	その他	合計
県央	1	3		1	13(1)		35(13)	3	1	2	3(1)				62(15)
湘南東部					4		1	1			1				7
湘南西部		3			6	1	1			3	2				16
県西		1			1	2	1	1	3	4					13
横須賀・三浦				6	4		5(3)			3				1	19(3)
横浜市				2	16		2	1							21
川崎市					1	1		1							3
相模原市			1		5		2								8
県外					3										3
合計	1	7	1	9	53(1)	4	47(16)	7	4	12	6(1)	0	0	1	152(18)

編集後記

災害時におけるリハビリテーションについては、災害に伴うリスクを軽減するためにも非常に重要な支援だと考えます。体を動かすこと、リラクゼーションを行うこと、限られた環境の中で安心して安全に生活ができるための環境調整を行うことなど、様々な手段があります。

当地域リハビリテーション支援センターにおいても、災害時の支援については改めて気を引き締め、準備を進めてまいります。

（副所長 磯部）

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢516
神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
☎ 046-249-2602
FAX 046-249-2601